

京都の改革

5

職業観育成 地域が尽力

生活力や職業観をほぐくむにも地域の協力が欠かせない。

京都府庁の目の前に1月、仮想の町が誕生した。旧滋野中学校の校舎を使った「京都まなびの街 生き方探究館」。役所や企業・商店など33の模擬店舗を集めた体験施設で、小中学生が、学校単位で訪れ、社会や経済の仕組みを学ぶ。小学生向けの「スチューデントシティ」には、京漬物や名物八ッ橋の店や西陣織会館もある。子供たちは、店長や会計、営業など、割り当てられた仕事と消費者の両方を体験し、電子マネーでの給料の支払いや決算もする。中学生向けの「ファイナンスパーク」では、公共機

教育ルネサンス

No.518



関や保険会社、証券会社を訪ねながら、与えられた年収や家族構成で家計のやりくりを考える。事前にローンや税金の知識も学ぶ。これらの学習内容は、金融・経済学習のプログラムや教材を提供するNPO「ジュニア・アチーブメント」（本部・米国）と市教委が練り上げた。西陣織会館の店員役を務めた市立西陣中央小学校5年の藤田悠月さん（11）は「うまく売るにはチラシを配るなど、情報をより早く



地元の京漬物を買う人も小学生。模擬店舗には本物の商品が並ぶ（京都まなびの街 生き方探究館で）

人に伝えることが大切だと分かった」と商売の苦労を痛感した。市立烏丸中学校2年の岩崎祐加さん（14）は、30歳という設定で生活設計を試み、子供がいるといかに負担が大きいかを実感した様子だった。模擬店舗を出店している28の地元企業や団体など

が、店に並べる本物の商品を用意したり、接客の仕方を教えるボランティアを派遣したりして、事業を支えている。地元の経営者からの多額の寄付も力となった。「町衆の力で教育をもり立てようとした明治初期の『番組小学校』に始まる京都人の心意気が息づいてい

職業観育成施設 スチューデントシティやファイナンスパークは、東京都品川区の区立八潮南小や城南中にも出来ている。空き教室を活用した施設だ。このほか、福島市では、商業ビルの空きスペースを借りる形で3年間、スチューデントシティを設けたことがある。昨年10月には、民間経営の職業体験型テーマパーク「キッザニア東京」が東京・豊洲にオープンした。

る」と同館の初田幸隆・企画推進室担当課長（50）。将来は、環境教育や食育も含めた総合的な体験学習の場にしたいという。
* 京都市立洛南中学校の2年生11人が今月7日、学校近くの農家5軒に分かれて農作業に打ち込んでいた。長靴姿で九条ねぎや金時にんじんといった京野菜の泥

を落とし、皮や根を取って商品価値を高める苦労を味わう。「目え痛いわ。もう耐えられへん」「私、平気やで」。刺激臭が充満する作業小屋でのネギの皮むきも生徒には新鮮そうだった。社会に出て生きる意味を中学生に見つめてもらおうと、京都市は2000年度から「生き方探究・チャレンジ体験」という職場体験事業をスタート。現在は大小約3300もの事業所が協力している。実習期間は当初、3日だったが、06年度から原則5日にした。農業体験をさせている京都市農協上鳥羽支部の久世昭支部長（63）は「5日間も中学生を預かるのは大変だ。ほかには頼みづらいので役員で分担している」と漏らしながらも「まじめな子も多いし、中学生の印象が変わった」と笑顔を見せる。将来を考える取り組みが、ここでも地域に支えられている。（野口賢志）